

国宝 薬師寺展



国宝 慈恩大師像 薬師寺展より ©飛鳥園

■ 加賀百万石大名 -武の装い- 前田育徳会尊經閣文庫分館

■ 古美術優品展 -加賀百万石の至宝- 第2展示室

■ 祈りの造形 -絵画・彫刻- 第3・4展示室

■ 石川の工芸 I 第5展示室

- 今月の企画展示室
- 平成25年度 土曜講座のご案内
- 新収蔵品紹介
- ミュージアムショップ通信
- 所蔵品紹介

主催／国宝薬師寺展金沢開催委員会・北國新聞社・石川県立美術館・
法相宗大本山薬師寺
後援／文化庁・石川県・石川県教育委員会・金沢市・金沢市教育委員会・
財団法人石川県芸術文化協会・NHK金沢放送局・テレビ金沢・
北陸放送・エフエム石川・ラジオかなざわ・ラジオこまつ・
ラジオななお・金沢ケーブルテレビネット・北陸こうわかい
学術協力／奈良国立博物館

平成25年4月26日(金)～6月23日(日)会期中無休

たくさんの入場者を集めて好評を博してきた「国宝 薬師寺」も、会期終盤に近づいてきました。一度ご覧になった方は、新聞などで知った新しい情報をもとにもう一度、まだご覧でない方は、ぜひこの機会にご覧いただきたいと思えます。

今回の展覧会開催にあたっては、薬師寺東塔の大修理に協力する考え方が一つの柱となっています。白鳳伽藍で唯一現存する東塔は、一三〇〇年もの歴史の中、兵火や災害・風雨に耐えて今日まで伝えられてきました。金堂・講堂・西塔が復興された今日、傷みの激しくなった東塔が課題となり、平成二十二年修理に着手しました。平成三十年に完成予定で、現在、工事のための覆屋が周囲を取り囲み、上部の水煙や九輪など相輪がすべて取り外されています。塔内の像などは外部に保管され、四天王像も修復されて薬師寺にお帰りになる前に本展での公開となりました。

今回公開している東塔の露盤蓋板と伏鉢は創建時のもので国宝です。一方、水煙は戦後の修理



国宝 吉祥天女像

()内は二十名以上の団体
友の会会員は会員証提示により団体料金に割引
関連行事
薬師寺僧侶によるガイダンス

一般	中高生	小学生
一、三〇〇円 (一、〇〇〇円)	一、〇〇〇円 (七〇〇円)	七〇〇円 (四〇〇円)

料金表

薬師寺の歴史や仏さまについてのガイダンスがあります。聴講は無料です。

時間 午前十一時、午後一時、午後三時
会場 ホール

に際して造られた模造です。露盤・伏鉢とともに水煙もその修理の際に模造と取り替えることになっていたのですが、当時はまだ状態がよく、取り替えるまでではないとの結論で、露盤・伏鉢のみ降ろされました。水煙は当初のものが再び据えられ、地上には模造が残ることとなったのです。現状の調査が進められているいま、公開は国宝の露盤・伏鉢と模造の水煙ということになりました。

五十九日間ととても長い会期でしたが、残すところ三週間あまり。朝一番に入場なさるか、客足が引く夕刻のご来館をお奨めします。また、できるだけ「兼六園シャトル」などの公共交通機関をご利用いただいて、駐車場への混雑を避けていただければと思います。



薬師寺東塔

国宝 薬師寺展

学芸員の眼

聖観世音菩薩は、東院堂のご本尊で、わが国の上代金銅仏を代表する名作として知られています。非常に美しいお姿で、万葉の貴公子を思わせる凛とした雰囲気を持っておられ、彫刻美の理想とさながら、左手を上げ右手を下げるポーズは、通常の



観音像とは逆だといわれます。右手を上げて施無畏印、左手に蓮華をとる姿が一般的ですので、左手を上げるこのお姿は、本尊の向かって左に立つ脇侍ではないかとの指摘があります。ところがお身体は腰をひねることなく直立し、まっすぐ前を見据えておられます。金堂薬師三尊の脇侍月光像と、同じく左手を上げていながらこの点が異なるところで、正面観を重視した左右対称のお姿からは独尊像と考えることが自然だと思えます。

今回の展示では、厨子も光背もありません。したがって後ろからも真横からもこの像を見ることができません。裳裾が左右に張り出していることや襷の重なり具合など、正面からだけでなく、後方からもじっくりとご覧いただきたいと思えます。



聖観世音菩薩 背面部分

展示会も後半を迎えました。毎年恒例の展示会ですが、今回の展示では十点の加賀象嵌鏡を公開していることが、大きな特色といえます。

江戸時代の象嵌鏡の多くが加賀産であり、将軍家へ献上されたり、各地の藩主への贈答に用いられました。鏡とは、乗馬の際に馬の背にかけた鞍の両側に吊るした力革に繋ぎ、足裏を踏み支える道具です。加賀象嵌といえは象嵌鏡を指すように、鉄地に銀や真鍮、金などの金属を象嵌して模様を表す技法です。象嵌には高象嵌、平象嵌、布目象嵌の技法がありますが、加賀ではその多くが平象嵌です。平象嵌は、地金の表面に鑿で文様を彫り、その窪みに金属を嵌めていく技法で、地金の部分と文様の部分を同じ高さとして研磨します。

また、加賀象嵌には金属がはずれないという特徴があります。それは、鑿で文様を彫る時に、入口より奥を広くすることで、象嵌した金属がはずれないのです。

このような確かな技術とともに、洗練されたデザイン性が高く評価されています。動物、植物、鳥、昆虫、魚貝、幾何学文、器物、自然など様々なモチーフが、巧に表現されていますが、その多くは、武運長久や子孫繁栄といった願いが込められています。

第6展示室の「古美術優品展―加賀百万石の至宝―」にも加賀象嵌鏡を三点展示していますので、合わせてご覧いただき、卓越した加賀文化の表現世界をお楽しみください。

第3・4展示室

祈りの造形

— 絵画・彫刻 —

4月21日(日)～6月23日(日) 会期中無休

「祈り」をテーマに日本画、洋画、彫刻の担当学芸員が、それぞれ所蔵品・寄託品の中から選び出して構成したのが今回の展示です。第三と第四、二つの展示室に四十二点の作品をジャンルを交えて展示いたしました。

日本画では仏陀、観音像、経堂、法隆寺や薬師寺の塔など直裁に仏教と関わる作品を主体に選んでいます。坂根克介作「観音」は、千手観音を流れるような動きを見せる白い八臂の姿に描いた優美な作品です。いにしへの仏画を現代的にアレンジしたといえましよう。

洋画では教会や神父、教会内にたたずむ女性など、キリスト教に関連する作品が見られます。小田根五郎作「ミラノ・ドゥオモ」、鴨居玲作「教会」

は、前者がミラノの大聖堂、後者がスペインの田舎の教会をテーマに描いたものです。「ミラノ・ドゥオモ」は激しいタッチで大聖堂がうなりを上げて天地を打ち振るわせるかのようなエネルギーを感じさせます。一方鴨居の宙に浮かぶ教会は入口も窓もなく、信仰のない自分には入ることの出来ない世界であることを語っています。

四十二点の作品の中には、「祈り」とどう関連するのだろうといふかられる作品もあるかと思ひ、解説をそれぞれに付けました。テーマをいくぶん広く捉え作品を選んでいきます。しかし、「祈り」という大きなテーマのもと、静謐で厳肅な、そして統一感のある空間が生まれたのではと感じるのですがどうでしょう。ぜひご覧いただきたく思います。



坂根克介
観音



小田根五郎
ミラノ・ドゥオモ

第6展示室

古美術優品展

— 加賀百万石の至宝 —

4月21日(日)～6月23日(日) 会期中無休

「国宝 薬師寺展」では、国宝の「聖観世音菩薩立像」を背後から鑑賞することができ点が大きな話題となっていますが、第6展示室で開催中の本展も、古九谷の名品を背後から鑑賞いただけるような展示方法をとっており、大変ご好評をいただいております。

今回の特集では古九谷をはじめ、加賀蒔絵、加賀象嵌、加賀友禅の優品を「加賀百万石の至宝」とのテーマで展示しています。そこで本号では、古九谷に劣らず名品を多く展示している加賀蒔絵についてご紹介したいと思います。加賀蒔絵は、加賀の地で制作された蒔絵で、室町時代にはすでに高い水準にあったことが、現存する作品から確認されます。そして江戸時代にはいると、加賀藩主前田家の文化政策により大きく発展しました。特に三代藩

主前田利常から五代藩主前田綱紀にかけての時代は、名工の招聘と材質・技法の追求により、全国に誇る芸術性の高い作品が数多く制作されました。

今回の特集では、江戸時代十七世紀の加賀蒔絵を代表する名工である清水九兵衛と五十嵐道甫をはじめ、その後継者たちの「美の饗宴」をお楽しみいただきたいと思います。展示作品では、五十嵐派の「蒔絵脇息図十二律箱」に注目したいと思います。十二律とは中国や日本の伝統音楽で音の高さを定める竹の管で、本作には加賀藩三代藩主前田利常の家臣が八条宮智忠親王の諸大夫に宛てた書状が添付されていることから、制作されたのは一六四〇年代であり、作者が五十嵐道甫であると考えられます。



蒔絵脇息図十二律箱 五十嵐派
江戸17世紀

今月の企画展示室
第7～9展示室(午後5時閉室)

第43回 日彫北陸展

6月30日(日)～7月4日(木) 会期中無休

第5展示室

石川の工芸 I

4月21日(日)～6月23日(日)
会期中無休

展示作品より
《乾漆輪花盛器》奥出寿泉作／昭和四十七年
五枚の花弁を思わせる輪花型の器です。目の覚めるような鮮やかな朱色が印象的で、華やかさの中にもしつとりとした気品が漂っています。口縁部分は細く線状に黒漆を見せて、乾漆の技法で成型された形をシャープに浮き立たせ、見事な造形感覚を示しています。

大正五年、加賀市山中町に生まれた作者は、十代から京都や東京で漆塗りの修業をし、金沢出身の優れた塗師・松波保真や近代漆芸界の巨匠・松田権六等に師事、日本伝統工芸展では受賞を重ね、その力量を発

日本彫刻会は、彫刻の美しさ、豊かな生命感、存在感、そして空間との対話を求めて日彫展を開催し、具象彫刻を中心に彫刻の本質をつかむべく、会員相互の研鑽を推し進め、造形芸術の向上に努めている国内では最大規模の彫刻公募団体です。

本展は四月に上野 東京都美術館で開催した第四十三回日彫展より芸術院会員をはじめ各受賞作品と、会員から選抜された優秀作を基本作品とし、石川、富山の地元出品作を合わせ、約九十点を展示します。是非ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

なお、身体障がい者手帳をお持ちの方と、付き添い二名を入場無料とし、触れてみられる作品も展示します(手形マーク添付)。また、会期中の六月三十日(日)には、子ども向けワークショップとして、やきもの粘土(テラコッタ用)を使った作品づくりを行います。

◇入場料

一般五〇〇円 高校・大学生三〇〇円 小中学生無料

◇連絡先

金沢美術工芸大学内 石田陽介
電話 〇七六一二六二一三五六八

揮しました。しかし昭和四十八年、五十七歳で急逝してしまいます。柳橋眞氏(金沢美術工芸大学名誉教授・元輪島漆芸美術館長)はその死を惜しまれ、あと五年寿命を長らえていたら、間違いなく人間国宝になられたであろうと述べています。(※注) 当館にご寄託いただいているこの作品は、その芸術の格調の高さを、十分に伝える優品といえます。

※注1 奥出寿泉 遺品調査・技術記録(平成十六年)高岡短期大学 漆工芸教習室



六月の行事予定

■土曜講座 午後1時30分～ 美術館講義室 聴講無料

二十九日(土) すわる・かたちの諸相 北澤寛 学芸専門員

次回の展覧会

会期：六月二十八日(金)～七月二十一日(日)会期中無休

前田育徳会 尊經閣文庫分館	近代の絵画
第二展示室	器の美ーガラス、陶芸、漆芸ー
第四展示室	すわる・かたちー人体彫刻ー
第五展示室	人間国宝のわざ
第三・六展示室	新収集品展

平成24年度

新収蔵品紹介

平成24年度は、下表のとおり新たに59点の作品が収蔵されました。内訳は寄附53点、購入6点です。ご寄付を賜りました皆様には、改めて厚く御礼を申し上げます。これで平成24年3月31日現在の収蔵品は、3,220点となりました。今後とも当館事業へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

番号	分類	作品名	作者名	寄附者(敬称略)
30	日本画	雪山	曲子 光男	曲子 明良
29	日本画	春雪	曲子 光男	曲子 明良
28	日本画	寂	曲子 光男	曲子 明良
27	日本画	開春	曲子 光男	曲子 明良
26	日本画	残雪	曲子 光男	曲子 明良
25	日本画	曙光	曲子 光男	曲子 明良
24	日本画	夢・人・花	戸田 博子	戸田 博子
23	日本画(古)	日月四季図	—	宮 太郎
22	日本画	菊	畠山 錦成	小泉 肇
21	日本画	午後の光線	松崎 十朗	松崎 十朗
20	日本画	暗い日	松崎 十朗	松崎 十朗
19	日本画	校庭	松崎 十朗	松崎 十朗
18	人形	木芯桐塑人形「雪ん子」	井口 十糸	井口 十糸
17	人形	木芯桐塑人形「雪晴間」	井口 十糸	井口 十糸
16	人形	木芯桐塑人形「風さん空きれいよ」	井口 十糸	井口 十糸
15	人形	木芯桐塑人形「俄雨」	井口 十糸	井口 十糸
14	人形	木芯桐塑人形「来るこない」	井口 十糸	井口 十糸
13	人形	木芯桐塑人形「祈り」	井口 十糸	井口 十糸
12	人形	木芯桐塑人形「野の鼓動」	井口 十糸	井口 十糸
11	人形	木芯桐塑人形「大地へ」	井口 十糸	井口 十糸
10	染織	友禪訪問着「日蝕」	天の 雅彦	購入
9	染織	友禪訪問着「刻響」	志々目哲也	購入
8	陶磁	組鉢 雪衾	南 絢子	購入
7	陶磁	笹文台付長皿	柴田有希佳	購入
6	陶磁	彩釉鉢「彩」	田島 正仁	購入
5	陶磁	金彩角皿	米山 央	購入
4	陶磁	耀変幾何紋大鉢	嵐 一夫	嵐 一夫
3	陶磁	釉裏金銀幾何紋鉢「奏」	嵐 一夫	嵐 一夫
2	陶磁	等差幾何文大皿	嵐 一夫	嵐 一夫
1	陶磁	色絵幾何文大皿	嵐 一夫	嵐 一夫

番号	分類	作品名	作者名	寄附者(敬称略)
59	彫刻	悠	野島耕之介	野島耕之介
58	彫刻	爽秋	野島耕之介	野島耕之介
57	彫刻	夏に想う	野島耕之介	野島耕之介
56	彫刻	青春歓喜	野島耕之介	野島耕之介
55	彫刻	トルソ	野島耕之介	野島耕之介
54	彫刻	岸加八郎像	矩 幸成	岸 弘市
53	油彩画	芽吹き	村田 省蔵	村田 省蔵
52	油彩画	朝	村田 省蔵	村田 省蔵
51	油彩画	尾道水道	村田 省蔵	村田 省蔵
50	油彩画	春近し	村田 省蔵	村田 省蔵
49	油彩画	丘	村田 省蔵	村田 省蔵
48	油彩画	古い館	村田 省蔵	村田 省蔵
47	油彩画	城塞	村田 省蔵	村田 省蔵
46	油彩画	午後の町	村田 省蔵	村田 省蔵
45	油彩画	館(長崎)	村田 省蔵	村田 省蔵
44	油彩画	水門	村田 省蔵	村田 省蔵
43	油彩画	黄衣	村田 省蔵	村田 省蔵
42	油彩画	満水	宮本 三郎	平井 聖
41	油彩画	水光る	新保 甚平	新保 甚平
40	油彩画	白い発電所	新保 甚平	新保 甚平
39	油彩画	遺跡に甦る	辰巳 明子	辰巳 明子
38	油彩画	仮面・縄文への連想	辰巳 明子	辰巳 明子
37	油彩画	オラトリオ、永遠	朝倉 雅子	朝倉 雅子
36	油彩画	オラトリオある日、青空を眺めて	朝倉 雅子	朝倉 雅子
35	油彩画	オラトリオ(天まであがれ)	朝倉 雅子	朝倉 雅子
34	油彩画	貴女に跪いて	朝倉 雅子	朝倉 雅子
33	油彩画	1996年沖繩	三浦 泉	三浦 泉
32	油彩画	遠い日	三浦 泉	三浦 泉
31	油彩画	残された刻	三浦 泉	三浦 泉

夏休み体験講座 参加者募集！

夏休みに美術を楽しんでいただく小学生親子対象のプログラムです。親子で制作できる楽しいひとときを過ごしてみませんか？今年度は午前中からお昼をはさんで制作する二講座と、午後開始で学年を問わず兄弟二名の親子でも参加できる新しい形の講座をご用意いたしました。

◆一・二・三年対象「ミニ屏風をつくらう」

8月5日(月) 10時30分～14時30分
定員／十五組 計三十名
参加費／親子二名 七〇〇円

子どもたちは屏風の絵を、保護者の方は屏風本体を担当し、親子合作で机の上にも飾ることが出来るミニ屏風を作ります。

◆四・五・六年対象「沈金でマイはし箱」

8月2日(金) 10時30分～14時30分
定員／十五組 計三十名
参加費／親子二名で一、三〇〇円

漆の沈金の技法で、マイはし箱を親子それぞれ制作します。

◆全学年対象「かえつこアート」

8月1日(木) 13時30分～16時
定員／二十組(一組三名まで)
参加費／一人 三〇〇円

色紙を好きな形に切って親子で交換。もらった形を何かに見立てて色画用紙に貼り、アートカードに仕立てます。

○体験講座お申し込み方法(往復はがき)

〔往信の宛名面〕

〒九二〇一〇九六三 金沢市出羽町二一
石川県立美術館 普及課宛

〔返信の文面〕

・参加希望の講座名
・参加者全員の氏名
・学年
・住所 電話番号

〔返信の宛名面〕

住所、お名前
〔返信の文面〕

何も書かないでください

応募締め切り／七月十二日(金)必着

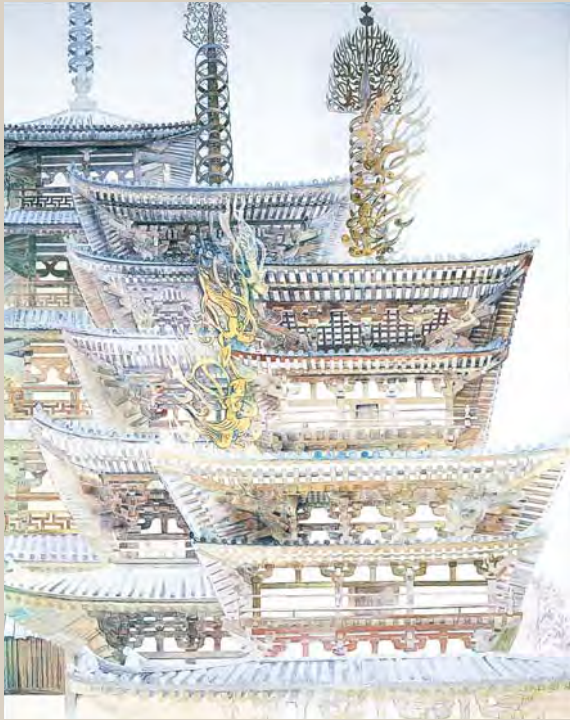


※定員を上回った場合は抽選となります。結果は返信はがきでお知らせいたします。
※講座対象学年以外のご兄弟(生後六ヶ月以上)のための無料の託児サービスを行っております。(要予約)

平成二十五年度の土曜講座

当館学芸員が行う土曜講座。本年度は左記の予定です。
講座は申し込み不要、聴講無料ですので、多くの皆様の御来館をお待ち致しております。

回数	月日	内容(予定)	担当学芸員
第1回	6月29日	すわる・かたちの諸相	北澤 寛
第2回	7月6日	よくわかる日本画2 団体展でみる日本画	前多 武志
第3回	7月13日	人間国宝のわざ	西田 孝司
第4回	7月20日	世界遺産を訪ねて6 京都	谷口 出
第5回	7月27日	ジャポニズムと日本の工芸―印象派への影響―	寺川 和子
第6回	9月7日	鴨居玲の構図	二木伸一郎
第7回	9月14日	俵屋宗達の画業―能楽と茶の湯の美意識から―	村瀬 博春
第8回	9月21日	尾形光琳の画業―風神雷神図への挑戦―	村瀬 博春
第9回	9月28日	加賀藩と寛永文化	高嶋 清栄
第10回	10月12日	琳派の再検証―琳派とは何だったのか―	村瀬 博春
第11回	10月19日	よくわかる日本画3 うつりゆく女性美	前多 武志
第12回	11月16日	加賀藩の美術工芸	高嶋 清栄
第13回	12月14日	美術にみる色・赤 その2	西田 孝司
第14回	12月21日	加賀藩前田家の能装束	村上 尚子
第15回	1月11日	水見晃堂と石川の木工芸	寺川 和子
第16回	1月18日	金沢の文化と茶道	高嶋 清栄
第17回	1月25日	宮本三郎の構図	二木伸一郎
第18回	2月1日	銅像と近代国家・美術	北澤 寛
第19回	2月8日	石川の石彫	北澤 寛
第20回	2月15日	世界遺産を訪ねて7	谷口 出
第21回	2月22日	美術にみる色・緑	谷口 出
第22回	3月1日	截金―仏教美術と伝統工芸―	寺川 和子
第23回	3月8日	世界遺産を訪ねて8	谷口 出
第24回	3月15日	加賀藩前田家と天神信仰	村上 尚子

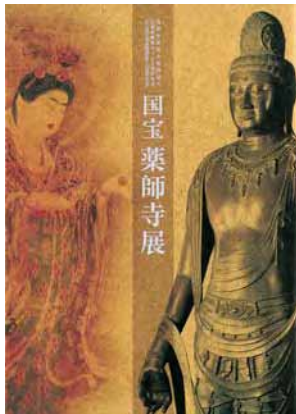


一見、静謐な伽藍堂塔を写實的に描いた風景画のようですが、手前には薬師寺東塔、奥には法隆寺五重塔が見えることから、イメージをオーバーラップさせた構想画であることがわかります。更に画面には諸仏の周囲を飛行し賛嘆する天人「飛天」が描かれており、よくみるとこれは薬師寺東塔の水煙に透かし彫りされているものです。水煙とは塔の相輪上部に施された装飾で、火災を防ぐ意味を持つとされます。画題の「水炎」も、ここから付けられたのでしょうか。二十四体の飛天が彫り込まれた東塔の水煙は、哲学者和辻哲郎をして「天人の体が水煙と融け合った微妙な装飾文様は、これほどのことま

でわれわれの祖先には出来たのかと思うほど美しい「古寺巡礼」と言わしめたものです。
作者上田珪草は、これより十年程前に「古塔」と題する同様の作品を制作しています。本作は専ら動物や自然を題材に発表を続けていた作者が、久々に伽藍堂塔から着想を得た作品といえます。
作者は、郷倉千鞠、速水御舟、小林古徑らに師事し、昭和三年再興第十五回院展初入選以後、院展を舞台に活躍しました。昭和十二年多摩美術大学助教授に就き、二十年には戦災により夫人の郷里である七尾市に疎開しました。日本美術院特待。

ミュージアム ショップ通信

連日盛況の薬師寺展。「聖観音」の前に時間も立ち尽くしている熱心なリピーターの方もみえます。また、今回の特徴的な取り組みは薬師寺僧侶によるガイドダンスです。会場には毎日数人のお坊さんが詰めており、薬師寺の縁起や今回出陳の文化財について、それぞれの切り口でユーモアを交え一日三回案内しています。なかには、日を変えてガイドダンスを聞きに来られ、各僧侶から図録に揮毫をして貰っている熱心な方も結構いるようです。



国宝 薬師寺展

定価 二,〇〇〇円

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 350円(280円)
大学生 280円(220円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション
展示室無料の日(6月は3日)

今月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

6月の全館休館日
24日(月)～27日(木)

毎週水曜日は
全館ポイント
プラスデー

Meiカード
通常ポイント

+ 3%

ポイントプラス

※催事場、地産食品売場などご奉仕品は、通常通りのポイントとさせていただきます。詳しくは売場係員におたずねください。

MEITETSU
MIZA
めいてつ・エムザ
金沢・むさしが社 TEL代表(076)260-1111
http://www.meitetsumza.com/
10時～20時 ●地産レストラン街・書庫は21時まで

石川県立美術館だより
第356号(毎月発行)
2013年6月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL:http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/